報告書

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会

2024年2月
公益財団法人　日本ライフセービング協会

目次

1. 概要

2. 審査会風景写真

3. 所感

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

1. 事業名称　　第８回ＪＬＡシミュレーション審査会

2. 事業目的
   ① 溺者・傷病者に対する救助救護技術の向上と、関係法令に遵守し、専門分野の有識者指導の下、ライフセーバー間の技術共有を目的とします。
   ② 医療機関まで『命をリレーする一員』として、ライフセーバーと公的救助機関との連携能力向上を目的とします。
   ③ 水辺利用者の安全向上を目的とします。
   ④ 日本各地の活動環境にあわせたシミュレーションを実施することで、実施者、審査員ともに様々な想定を学び成長できる機会とするとともに、各地のライフセーバーと公的救助機関との連携促進を目指します。

3. 日程場所

北関東ブロック	2023/10/29（日）千葉県安房郡鋸南町保田海岸
九州沖縄・四国ブロック	2023/11/ 4 （土）大分県大分市田ノ浦ビーチ
南関東ブロック	2023/11/12（日）神奈川県横浜市金沢区海の公園
東海ブロック	2023/11/26（日）静岡県牧之原市相良サンビーチ
近畿・中国・四国ブロック	2023/12/2（土）和歌山県和歌山市片男波海水浴場
北海道・東北・北信越ブロック	2023/12/3（日）富山県射水市 新湊アイシン軽金属スポーツセンター体育館

4. 主催　　公益財団法人 日本ライフセービング協会

5. 後援　　海上保安庁、消防庁
   千葉県、大分県、神奈川県、静岡県、和歌山県、富山県
   鋸南町、大分市、横浜市、牧之原市、和歌山市、射水市、公益財団法人横浜市緑の協会

6. 助成　　公益財団法人 日本財団

7. 協賛　　味の素株式会社、ソニー生命保険株式会社

8. 協力　　第三管区海上保安本部、第七管区海上保安本部、第五管区海上保安本部、第九管区海上保安本部、千葉海上保安部、大分海上保安部、横浜海上保安部、清水海上保安部・御前崎海上保安署、和歌山海上保安部、伏木海上保安部、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部、大分市消防局、横浜市消防局金　沢消防署、静岡市消防局牧之原消防署、和歌山市消防局、射水市消防本部、大分中央警察署、金沢警察署、株式会社櫻井興業、株式会社ピースフル、千葉県ライフセービング協会、一般社団法人大分県ライフセービング協会、神奈川県ライフセービング協会、特定非営利活動法人静岡県ライフセービング協会、大阪府ライフセービング協会、富山県ライフセービング協会、特定非営利活動法人九十九里ライフセービングクラブ、東京消防庁ライフセービングクラブ、大分市ライフセービングクラブ、横浜海の公園ライフセービングクラブ、成城学園高等学校ライフセービングクラブ、相良サーフライフセービングクラブ、特定非営利活動法人大阪ライフセービングクラブ、富山ライフセービングクラブ

9. 審査項目
   ① 継続監視要領
   ② ライフセーバー間の連携要領
   ③ 傷病者への観察要領
   ④ 救急隊への引き継ぎ要領
   ⑤ 観衆への対応要領
   ⑥ 監視長の指揮要領
   ⑦ 資器材の適正な取扱い要領
   ⑧ 環境に配意した対応要領
   ⑨ 接遇要領
   ⑩ 関係者の対応要領

10. 想定の概略

① 審査長の「想定はじめ」の合図から審査開始とします。

② ６名態勢で通常の監視業務中に有事が起きたこととします。

③ 他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは良好です。

④ 遊泳禁止等の判断は行政・観光協会の３者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。

⑤ 実施者により仮想１１９通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。

⑥ 総括の指示で係員が計測を行い、総括の「想定終わり」の合図によって審査終了とします。

⑦ 想定に別途変更などあった場合、当日事前説明時に変更点や付加事項などを実施者にお知らせします。

11. 実施時間　12分間（実施チーム数によって変更します）

12. 実施人数　６名　内訳(監視長１名　監視員５名)

13. 使用資器材（地域によって変更の可能性あり）

① レスキューボード・レスキューチューブ・双眼鏡・パイプ椅子・拡声器・ＡＥＤ・バックボード・滅菌ガーゼ・サージカルテープ・三角巾・固定副子・バスタオル・滅菌精製水など（事前に手に取って確認することができます）・熱湯・水

② その他、普段監視業務で使用している資器材の持ち込みを可能とします。

14. 表彰　　審査結果により優秀チームを表彰します。

15. 参加費　　１チーム　3,000円

16. 参加数　　<ライフセーバー参加数>

① 2023/10/29（日）千葉県安房郡鋸南町保田海岸　6チーム（36名）
② 2023/11/ 4（土）大分県大分市田ノ浦ビーチ　3チーム（14名）
③ 2023/11/12（日）神奈川県横浜市金沢区海の公園　9チーム（54名）
④ 2023/11/26（日）静岡県牧之原市相良サンビーチ　9チーム（54名）
⑤ 2023/12/2（土）和歌山県和歌山市片男波海水浴場　3チーム（18名）
⑥ 2023/12/3（日）富山県射水市新湊アイシン軽金属スポーツセンター体育館　3チーム（18名）

合計　33チーム　194 名
<審査員、エキストラスタッフ、関係諸機関参加数>
41名＋34名＋67名＋32名＋35名＋35名　　合計　244名
＜見学・観覧者＞
30名＋20名＋80名＋20名＋20名＋20名　　合計　190名

総合計　628名

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

別紙７　想定８　2023 年度　想定予定　当日に状況により内容が変更される場合があります。

時間	項目
０分	ライフセーバー（以下ＬＳ）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 ０秒後スタート 傷病者 A；監視本部前の波打ち際から自力歩行	監視本部前の波打ち際から、傷病者 A（年齢実年齢、学生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、遊泳中に右下腿（右ふくらはぎ）に急激な痛みを感じ、監視本部まで歩いてきた（自力歩行）。時間経過とともに右下腿の痛みが増してきたと訴える。 また、上記の受傷した際に驚き右に転倒した。岩場に右前腕をつき、同位置に５ｃｍ程度の裂創、出血している。 【想定のねらい】右下腿には触手が残っていないことから、どのクラゲ（刺胞動物）に刺されたのか不明。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がけ含め傷病者 A が安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか（お湯を使って温める。何が何でも海水をかける行為は NG）。④感染防止対策は十分であったか。⑤右前腕の裂創に対して止血を含む対応は適切であったか。
想定開始後 45 秒後スタート 傷病者 B；監視本部前の波打ち際で意識不明	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から 40m程度離れた波打ち際に溺れた人（傷病者 B）が引き上げられたようだと通報を受ける。通報者は、海の家（エイジア）の従業員（年齢実年齢、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ)）。 傷病者は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部に来たが、どのような状況で溺れ、救出されたか前後の状況は全く知らない。傷病者 B（年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)は波打ち際の人だかりの中で側臥位。ライフセーバーの初見はレベル 300。周囲にいた傷病者の友人も泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3 回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち１名が、波打ち際 20m程度の位置でうつ伏せ浮きしている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げたと、ライフセーバーからの問いかけで回答する。 傷病者の状態：ＬＳ接触時、呼吸、脈、意識なしの状態から CPA と判断、左記状態以外は見たまま、 外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。） 訓練用ＡＥＤを装着した場合は、解析するもショックの必要なし。実機用パットのため粘着力強。ライフセーバーの CPR 実施は訓練用ダミーを用意。バイタルの観察は生体を使用。呼吸なし、橈骨・総頸動脈触れない。大量の海水を飲んでいると想定される。 関係者の条件：LS 接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS 接触後 30 秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、救急車呼んだのであれば荷物を取りに 300m離れた海の家まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着１分後まで戻ってこなくなる。海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)）、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって 090-7000-5762）、住所（品川区とだけ回答）。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者はいつの間にかはぐれてしまい直前の状況は分からない。気付いた時には海にうつ伏せで浮いている状態で、呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20 分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119 番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のねらい】溺水により当初は意識レベル 300。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②CPA の判断、③救急要請、④CPR の実施、⑤AED の扱いが適切かつ迅速であったか。電極パッドの貼り付け位置が適切であったか。⑥CPR 中断の判断、⑦CPR 若しくは EAR を継続し、必要であればライフセーバー間の交代や連携はスムーズであったか。⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視［重要］。⑪溺水に伴う脈の観察でどの動脈を選択したか。⑫リトルアンを使用するため形だけではない人工呼吸や胸骨圧迫が適切に実施されているか。⑬意識・呼吸・脈の確認を形式的でなくしっかりと観察できているか。⑭注意事項；JLA では、「新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2023（2023 年 6 月 21 日）」に示したように、2023 年度はマウス・トゥ・マスクによる人工呼吸は傷病者と救助者の顔が至近になるため推奨していませんが、溺水の場合は低酸素血症が心停止の原因であることから、第 8 回シミュレーション審査会では、アフターコロナを見据えて感染対策（例えば HEPA フィルター付きポケットマスクの使用）をしたうえでの人工呼吸の実施は加点対象とします。なお、BVM は使用については JLA 活動ガイドラインで推奨していないことにご注意ください。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12 分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

2023 年 11 月 29 日（日）千葉県 鋸南町 保田海岸会場　タイムテーブル

時間	項目
08：00	係員集合　会場設営開始
09：00	会場設営完了　エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09：30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09：35	実施チーム受付開始
09：50	全実施チーム参加者本部テント前集合　開会式に伴い集合
09：55	主催者挨拶　日本ライフセービング協会　理事長　入谷拓哉 日本ライフセービング協会　救助救命本部本部長　石川 仁憲 ご挨拶　鋸南町　町長　白石　治和（しらいし　はるかず）様 紹介 審査員 安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部 館山消防署　鋸南分署　副分署長　押元　英明（おしもと　ひであき）様 紹介 審査員 千葉海上保安部　警備救難課長　上田　博幸（うえだ　ひろゆき）様 紹介 随行　千葉海上保安部　警備救難課　臼倉　大輔（うすくら　だいすけ）様 ■救急隊員エキストラ　館山消防署　鋸南分署　救急隊 救急隊長　宇田川　直茂（うだがわ　なおしげ）様 隊員（副主査）　笹子　俊之　（ささご　としゆき）　様 隊員（副主査）　庄司　侃平　（しょうじ　こうへい）様 紹介　審査員　館山サーフライフセービングクラブ　中川　容子 紹介　審査員　九十九里ライフセービングクラブ天津小湊　小山　留奈 紹介　審査員　九十九里ライフセービングクラブ鋸南　青田　薫枝 紹介　審査員　鹿嶋ライフガードチーム下津　中林　拓海 紹介　審査員　鹿嶋ライフガードチーム平井　山崎　果音 紹介　審査員　ＪＬＡアカデミー本部副本部長　関口　義和 紹介　審査員　ライフセービングスポーツ本部　江川　陽介 紹介　審査員　ＪＬＡＭＤ　北村　伸哉 紹介　審査員　ＪＬＡスーパーバイザー　足立　正俊 紹介　審査員　ＪＬＡスーパーバイザー　小峯　力 事務連絡及び補足説明
10：30	第１回目実施　館山サーフライフセービングクラブ
10：50	第２回目実施　九十九里ライフセービングクラブ天津小湊
11：10	第３回目実施　九十九里ライフセービングクラブ鋸南
11：30	第４回目実施　大洗サーフライフセービングクラブ
11：50	第５回目実施　鹿嶋ライフガードチーム 下津
12：10	第６回目実施　鹿嶋ライフガードチーム　平井
12：40	■集合写真　昼食
13：10	■各公的救助機関、ＪＬＡメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評　表彰 審査会総括　実行委員長（救助救命副本部長）菊地　太
14：10	■実施チーム　撤収は審査員以外協力 本部テント２張以外は撤収開始　車内積載開始　その後　事務連絡　全係員解散　日没時間　16 時 51 分

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

2023 年 11 月 4 日（土）大分県　大分市　田ノ浦ビーチ会場　タイムテーブル

時間	項目
08：00	係員集合　会場設営開始
09：00	会場設営完了　エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09：30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09：35	実施チーム受付開始
09：50	全実施チーム参加者本部テント前集合　開会式に伴い集合
09：55	主催者挨拶　日本ライフセービング協会　理事長　入谷拓哉 日本ライフセービング協会　救助救命本部本部長　石川 仁憲 紹介 ご来賓　大分市議会議員　倉掛 賢裕（くらかけ　まさひろ）様 ご来賓　大分県水難救済会　会長　御手洗 吉生（みたらい　よしお）様 ご来賓大分県水難救済会　事務局長　木ノ下 勝矢（きのした　かつや）様 紹介 審査員　大分市消防局 救急救命課　参事　濱崎 正秀（はまさき まさひで）様 紹介 審査員　大分海上保安部　警備救難課　救難係長　小楠　幸康（おぐす　ゆきやす）様 紹介 審査員　大分中央警察署　地域課長　神田 恭宏（かんだ やすひろ）様 ■救急隊員エキストラ　大分市中央消防署　救急隊 救急隊長　大分市中央消防署　救急救助第２担当班　岡部 敏寛（おかべ としひろ）様 隊員　大分市中央消防署　救急救助第２担当班　清水 将之（しみず まさし）様 機関員　大分市中央消防署　救急救助第２担当班　末 祐太郎（すえ ゆうたろう）様 紹介　審査員　大分市ライフセービングクラブ　尾田　智史（おだ さとし） 紹介　審査員　かごしま磯ライフセービングクラブ　山下　丞（やました すすむ） 紹介　審査員　ライフセービング教育本部　地域教育推進委員会　國木 孝治（くにき たかはる） 紹介　審査員　ＪＬＡアカデミー本部　BLS 委員会委員　濱田　博孝（はまだ ひろたか） 紹介　審査員　ＪＬＡメディカルダイレクター　吉澤　大（よしざわ だい） 事務連絡及び補足説明
10：30	第１回目実施　大分市ライフセービングクラブ B
10：50	第２回目実施　大分市ライフセービングクラブ A
11：10	第３回目実施　新宮ライフセービングクラブ
11：30	■集合写真　昼食
12：10	■各公的救助機関、ＪＬＡメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評　表彰 審査会総括　実行委員長（救助救命副本部長）菊地　太
13：10	■実施チーム　撤収は審査員以外協力 本部テント２張以外は撤収開始　車内積載開始　その後　事務連絡　全係員解散　日没時間　17 時 20 分

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

2023 年 11 月 12 日（日）神奈川県　金沢区　横浜海の公園会場　タイムテーブル

時間	項目
08：00	係員集合　会場設営開始
09：00	会場設営完了　エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09：30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09：35	実施チーム受付開始
09：50	全実施チーム参加者本部テント前集合　開会式に伴い集合
09：55	主催者挨拶　日本ライフセービング協会　理事長　入谷拓哉 日本ライフセービング協会　救助救命本部本部長　石川 仁豪 ご挨拶　第三管区海上保安本部　警備救難部　救難課長　塩見　慶史（しおみ　けいじ）様 ご挨拶　横浜市消防局　金沢消防署　警防課警防第一係　警防第一担当課長　山口　達也（やまぐち　たつや）様 ご挨拶　公益社団法人日本水難救済会 理事長　遠山　純司（とおやま　あつし）様 紹介 審査員 横浜市消防局　金沢消防署　警防課　救急担当係長　青木　英和（あおき　ひでかず）様 紹介 審査員 横浜海上保安部　警備救難課　救難係長　森　真俊（もり　まさとし）様 ■救急隊員エキストラ　横浜市消防局　金沢消防署　救急隊 隊員　安西　隆雄（あんざい　たかお）様 隊員　小菅　翔大（こすげ　しょうた）様 隊員　清水　晋（しみず　すすむ）様 ■救急隊員エキストラ支援　東京消防庁ライフセービング部会 本多　辰也　様　終日 後関　裕輔　様　終日 寺尾　匡人　様　終日 佐藤　翔一　様　AM のみ 久源　太　様　PM のみ 小谷　千幸　様　PM のみ 紹介　審査員　葉山ライフセービングクラブ　竹田　昇正 紹介　審査員　波崎サーフライフセービングクラブ日川浜　村上　武瑠 紹介　審査員　常陸サーフライフセービングクラブ高萩　牧野　友海 紹介　審査員　波崎サーフライフセービングクラブ波崎　菊永　梨々香 紹介　審査員　成城学園高等学校ライフセービングクラブ　杉崎　友梨 紹介　審査員　鎌倉ライフガード　林　亮太 紹介　審査員　逗子サーフライフセービングクラブ　齋藤　圭佑 紹介　審査員　西浜サーフライフセービングクラブ　坂本　真徳 紹介　審査員　大竹サーフライフセービングクラブ　菅原　源太 紹介　審査員　横浜海の公園ライフセービング　座間　吉成 紹介　審査員　ライフセービング教育本部　学校教育推進委員会　小田　貢木子 紹介　審査員　ＪＬＡアカデミー本部 サーフライフセービング委員会　宮田　沙依 紹介　審査員　ＪＬＡメディカルダイレクター　朽方　規喜 紹介　審査員　ＪＬＡパトロールレスキュー委員会・医師　宮原　光興 紹介　審査員　ＪＬＡスーパーバイザー　中見　隆男 事務連絡及び補足説明
10：30	第 1 回目実施　葉山ライフセービングクラブ
10：50	第 2 回目実施　波崎サーフライフセービングクラブ日川浜
11：10	第 3 回目実施　常陸サーフライフセービングクラブ高萩
11：30	第 4 回目実施　波崎サーフライフセービングクラブ波崎
11：50	第 5 回目実施　鎌倉ライフガード
	昼食
12：40	第 6 回目実施　成城学園高等学校ライフセービングクラブ
13：00	第 7 回目実施　逗子サーフライフセービングクラブ
13：20	第 8 回目実施　西浜サーフライフセービングクラブ
13：40	第 9 回目実施　大竹サーフライフセービングクラブ
14：00	第 10 回目実施　横浜海の公園ライフセービング
14：40	■集合写真　■各公的救助機関、ＪＬＡメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評　表彰 審査会総括　実行委員長（救助救命副本部長）菊地　太
15：40	■実施チーム　撤収は審査員以外協力 本部テント 2 張以外は撤収開始　車内積載開始　その後　事務連絡　全係員解散　日没時間　16 時 38 分

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

2023 年 11 月 26 日（日）静岡県 牧之原市 さがらサンピーチ会場　タイムテーブル

時間	項目
08：00	係員集合　会場設営開始
09：00	会場設営完了　エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09：30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09：35	実施チーム受付開始
09：50	全実施チーム参加者本部テント前集合　開会式に伴い集合
09：55	主催者挨拶　日本ライフセービング協会　理事長　入谷拓哉 日本ライフセービング協会　救助救命本部本部長　石川 仁豪 ご挨拶　牧之原市長　杉本　基久雄　様（すぎもと　きくお）様 紹介 海上保安庁第三管区海上保安部　御前崎海上保安署長　保坂　和彦（ほさか　かずひこ）様 紹介 審査員 静岡市消防局　牧之原消防署　消防司令　森田　敬之（もりた　たかゆき）様 紹介 審査員 海上保安庁第三管区海上保安部　御前崎海上保安署　土屋　豪　（つちや　たけし）様 紹介 審査員 牧之原市役所　産業経済部　部付課長　八木　康仁（やぎ　やすひと）様 紹介 随行　牧之原市役所　産業経済部　商工観光課　係長　石川　隆太（いしかわ　りゅうた）様 紹介 随行　牧之原市役所　産業経済部　商工観光課　主事　芳村　武郎（よしむら　たけしろう）様 ■救急隊員エキストラ　静岡市消防局　牧之原消防署　救急隊 消防司令　鈴木 啓介（すずき　けいすけ）様 消防士長　山中 智気（やまなか　ともき）様 消防士　水井 愛弓（みずい　あゆみ）様 紹介　審査員　土肥ライフセービングクラブ　土本　咲姫 紹介　審査員　南伊豆ライフセービングクラブ　横田　偉大 紹介　審査員　御浜ライフセービングクラブ　瀧本　沙苗 紹介　審査員　下田ライフセービングクラブ白浜地区　高橋　颯 紹介　審査員　熱川ライフセービングクラブ　中川　大地 紹介　審査員　西伊豆松崎ライフセービングクラブ西伊豆地区　花澤　祐紀 紹介　審査員　牧之原ライフセービングクラブ連合 B　富山　直樹 紹介　審査員　牧之原ライフセービングクラブ連合 A　町田　楓 紹介　審査員　用宗ライフセービングクラブ　榎本　裕子 紹介　審査員　ライフセービング教育本部　地域教育推進委員会　石原　早織 紹介　審査員　ＪＬＡアカデミー本部　PLG 委員長　大塚　敬幸 紹介　審査員　ＪＬＡメディカルダイレクター　北村　伸哉 紹介　審査員　ＪＬＡスーパーバイザー　中見　隆男 事務連絡及び補足説明
10：30	第 1 回目実施　土肥ライフセービングクラブ
10：50	第 2 回目実施　南伊豆ライフセービングクラブ
11：10	第 3 回目実施　御浜ライフセービングクラブ
11：30	第 4 回目実施　下田ライフセービングクラブ白浜地区
11：50	第 5 回目実施　熱川ライフセービングクラブ
	昼食
12：40	第 6 回目実施　西伊豆松崎ライフセービングクラブ西伊豆地区
13：00	第 7 回目実施　牧之原ライフセービングクラブ連合 B
13：20	第 8 回目実施　牧之原ライフセービングクラブ連合 A
13：40	第 9 回目実施　用宗ライフセービングクラブ
14：20	■集合写真　■各公的救助機関、ＪＬＡメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評　表彰 審査会総括　実行委員長（救助救命副本部長）菊地　太
15：20	■実施チーム　撤収は審査員以外協力 本部テント 2 張以外は撤収開始　車内積載開始　その後　事務連絡　全係員解散　日没時間　16 時 37 分

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

2023 年 12 月 2 日（土）和歌山県 和歌山市 片男波海水浴場 会場　タイムテーブル

時間	項目
08：00	係員集合　会場設営開始
09：00	会場設営完了　エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09：30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09：35	実施チーム受付開始
09：50	全実施チーム参加者本部テント前集合　開会式に伴い集合
09：55	主催者挨拶　日本ライフセービング協会　理事長　入谷拓哉 紹介　審査員　第五管区海上保安本部 警備救難部救難課 救難業務係長　米田　剛士（よねだ　たけし）様 紹介　講評　和歌山市消防局　警防課　救急救助班長　有松　和彦（ありまつ　かずひこ）様 紹介　審査員　和歌山市消防局　警防課　救急救助班　田村　隆幸（たむら　たかゆき）様 紹介　随行　和歌山海上保安部　警備救難課　海上防災係長　唐要　哲也（からつま　てつや）様 ■救急隊員エキストラ　和歌山市消防局　中消防署　南分署　第２班救急小隊 救急隊長：消防司令補　西　真史（にし　まさふみ）様 救急隊員：消防士長　中西　雄一（なかにし　ゆういち）様 救急隊員：消防副士長　松谷　俊希（まつたに　としき）様 紹介　審査員　大阪ライフセービングクラブ　高橋　大樹 紹介　審査員　大阪ライフセービングクラブ　大橋　一輝 紹介　審査員　ライフセービング教育本部　推薦　西岡 あゆみ 紹介　審査員　ライフセービングスポーツ本部　アスリート委員会　出木谷　啓太 紹介　審査員　ＪＬＡアカデミー本部　サーフライフセービング委員会　吹田　光弘 紹介　審査員　ＪＬＡメディカルダイレクター/大阪 SLC　鍛冶　有登 紹介　審査員　ＪＬＡスーパーバイザー　豊田　勝義 紹介　審査員　ＪＬＡ顧問　青木　伸一 事務連絡及び補足説明
10：30	第１回目実施　大阪ライフセービングクラブ　磯ノ浦海水浴場
10：50	第２回目実施　大阪ライフセービングクラブ　片男波海水浴場
11：10	第３回目実施　大阪ライフセービングクラブ　白良浜海水浴場
11：30	■集合写真　■各公的救助機関、ＪＬＡメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評　表彰 審査会総括　実行委員長（救助救命副本部長）菊地　太
12：30	■実施チーム　撤収は審査員以外協力 本部テント２張以外は撤収開始　車内積載開始　その後　事務連絡　全係員解散　日没時間　16 時 50 分

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

2023 年 12 月 3 日（日）富山県射水市新湊アイシン軽金属スポーツセンター体育館 会場タイムテーブル

時間	項目
08：00	係員集合　会場設営開始
09：00	会場設営完了　エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09：30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09：35	実施チーム受付開始
09：50	全実施チーム参加者本部テント前集合　開会式に伴い集合
09：55	主催者挨拶　日本ライフセービング協会　理事長　入谷拓哉 ご挨拶　伏木海上保安部長　谷　清仁（たに　きよひと）様 紹介　随行　伏木海上保安部　富山分室長　坂井　雄一郎（さかい　ゆういちろう）様 紹介　審査員　伏木海上保安部　救難係長　細貝　圭佑（ほそかい　けいすけ）様 紹介　審査員　富山県射水市消防本部　防災課　消防司令補　草嶋　隆（くさじま　たかし）様 紹介　審査員　日本赤十字社　富山県支部　事業推進課長　林　信宏（はやし　のぶひろ）様 紹介　■救急隊員エキストラ　富山県射水市消防本部　救急隊 消防士長　高瀬　昌樹（たかせ　まさき）様 消防士　今村　凌也（いまむら　りょうや）様 消防士　島崎　蓮（しまざき　れん）様 紹介　随行　伏木海上保安部　救難係　工藤　裕太郎（くどう　ゆうたろう）様 紹介　審査員　富山県ライフセービング協会　豊岡　勝 紹介　審査員　富山ライフセービングクラブ　富川　剛 紹介　審査員　ライフセービング教育本部　地域教育推進委員会　高橋　悠 紹介　審査員　ライフセービングスポーツ本部　アスリート委員会　出木谷　啓太 紹介　審査員　ＪＬＡアカデミー本部/柏崎ライフセービングクラブ　池谷　雅美 紹介　審査員　ＪＬＡメディカルダイレクター　鍛冶　有登 紹介　審査員　ＪＬＡスーパーバイザー　豊田　勝義 事務連絡及び補足説明
10：30	第１回目実施　富山県ライフセービング協会
10：50	第２回目実施　柏崎ライフセービングクラブ
11：10	第３回目実施　富山ライフセービングクラブ
11：30	■集合写真　■各公的救助機関、ＪＬＡメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評　表彰 審査会総括　実行委員長（救助救命副本部長）菊地　太
12：30	■実施チーム　撤収は審査員以外協力 本部テント２張以外は撤収開始　車内積載開始　その後　事務連絡　全係員解散　日没時間　16 時 35 分

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

会場図

千葉県 鋸南町 保田海岸会場　会場図

大分県　大分市　田ノ浦ビーチ会場　会場図

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

会場図

神奈川県　横浜市　横浜海の公園　会場図

静岡県　牧之原市　さがらサンビーチ会場　会場図

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会の概要

会場図

和歌山県　和歌山市　片男波海水浴場　会場　会場図

富山県　射水市　海老江海浜公園　会場　会場図

富山会場は天候及び気温起案の影響で「新湊アイシン軽金属スポーツセンター」体育館内に変更されました。

2023年10月29日（日）
千葉県　安房郡　鋸南町　保田海岸会場

刺胞海生物に刺された傷病者に対して、JLAの推奨する応急処置は、原則、火傷しない42℃程度の温水などにより30分程度温めることとされている。
今回のJLAの準備した使用器材の中には、50度を超える温水と、常温水を豊富に準備していたことから、ライフセーバーがどのように対応するのかが評価の一項目となっていた。

温度が下がらない状況を維持できたかが、傷病者の主訴を軽減させることにつながる。

2023年10月29日（日）
千葉県　安房郡　鋸南町　保田海岸会場

JLAから示している感染症対策ガイドラインに則って、各参加チームが感染防止対策を講じており、装備に対しても、要救助者にマスク着用を促すなど意識が高い参加者が少なくなかった。

一方、屋外での感染防護衣着装などは、風などの影響もあり、装備完了に時間を要する参加チームが散見され、よりトレーニングが必要と課題が確認できた。

2023年10月29日（日）
千葉県　安房郡　鋸南町　保田海岸会場

現場と本部間の無線交信をスムーズに行うことの重要性を確認できた。

現場の状況がわからないと、本部で１１９番通報するための情報が得られず、結果１１９番通報が刻々と遅延する。通報開始時間の早いチームと遅いチームの差が2分以上あった。また、胸骨圧迫開始時間にあっても早いチームと遅いチームの差は110秒あった。ここは少しの連携能力向上で救命率が大きく変わる課題ととらえる。

審査会では、トレーニング用電極パッドより粘着力が強い実機用電極パッドを使用していることから、貼り付け時に電極パッドの袋やコードが巻き込まれると剥がし難いといった問題が起きることを確認できた。

2023年10月29日（日）
千葉県　安房郡　鋸南町　保田海岸会場

2023年11月4日（土）
大分県　大分市　田ノ浦ビーチ会場

大分県では昨年に引き続き2回目の開催となりました。
昨年は雪吹雪く中での審査会でしたが、今年度は1カ月開催日を早くしただけで、気温が20度を超え活動しやすい環境でした。
一方、昨年に引き続き福岡県から参加チームがあるなど、遠方から参加される姿勢に運営側も襟を正さねばと考えさせられました。

開催にあたり多くの行政機関様のご支援ご協力があり、学ぶことも多く貴重な時間となりました。

2023年11月4日（土）
大分県　大分市　田ノ浦ビーチ会場

救急車内収容時は、メインストレッチャーの転倒事故の危険性が高まるため、ライフセーバーは、サイドについてメインストレッチャーを支えるなどの救急隊支援は事故防止の観点から有益と考えます。各地域の公的救助機関と連携していくにあたり、監視業務前に支援していいのか確認事項として次第に上げることも必要です。

刺胞海生物に刺された傷病者に対して、JLAの推奨する応急処置は、原則、火傷しない42℃程度の温水などにより30分程度温めることとされている。
今回のJLAの準備した使用器材の中には、50度を超える温水と、常温水を豊富に準備していたことから、ライフセーバーがどのように対応するのかが評価の一項目となっていた。

温度が下がらない状況を維持できたかが、傷病者の主訴を軽減させることにつながる。

2023年11月4日（土）
大分県　大分市　田ノ浦ビーチ会場

観衆に協力依頼し、胸骨圧迫の協力要請するチームがあった。

また、2名で実施したチームは、器材を搬送しやすいようにまとめる等、事前の準備が優れていた。審査会のための事前準備ではなく、現実的な器材管理ができているチームがあった。

写真を見る限り、各種器材が散乱しています。
またライフセーバーは監視業務継続中であり、現場に３名。この後救急車内収容。
布担架にて、メインストレッチャーまでの搬送、砂地を50m程度。救急隊は革靴での搬送となります。
救急隊に任せすぎるのではなく、ライフセーバーに何かもっとできたのではないかと、検証することも大切な振り返りとなります。

2023年11月12日（日）
神奈川県　横浜市　金沢区　海の公園会場

刺胞海生物に刺された傷病者に対して、JLAの推奨する応急処置は、原則、火傷しない42℃程度の温水などにより30分程度温めることとされている。
今回のJLAの準備した使用器材の中には、50度を超える温水と、常温水を豊富に準備していたことから、ライフセーバーがどのように対応するのかが評価の一項目となっていた。

温度が下がらない状況を維持できたかが、傷病者の主訴を軽減させることにつながる。

2023年11月12日（日）
神奈川県　横浜市　金沢区　海の公園会場

８年目の開催となると、
- 観衆への協力要請
- 救急隊への情報共有の時間短縮
- 観衆の制動を含めた掌握
- 現場と監視長間の情報共有の醸成
- 感染対策防護衣の着装技術

全てにおいて、各参加チームの技術の向上を感じました。

実災害に近い状態での環境を作れているのは、ひとえにエキストラの方々が作り上げて下さっているからと心より感謝申し上げます。寒い環境下で何度も演じて下さる事に深く感謝しています。

2023年11月12日（日）
神奈川県　横浜市　金沢区　海の公園会場

横浜海の公園での開催は今年で２回目となりましたが、参加チームの連携は年々向上していると感じます。

一方、横浜市消防局職員の方々には実施回数も多い中、ご尽力下さり深く感謝申し上げます。

2023年11月12日（日）
神奈川県　横浜市　金沢区　海の公園会場

東京消防庁ライフセービングクラブの方々も救急隊エキストラとして多くの人員のご協力くださり深く感謝申し上げます。彼らの真剣な姿勢も、皆さんと一緒に向上し、水辺利用者の安全安心につなげたいとの思いからと伺っています。頭の上がらぬ思いです。

2023年11月26日（日）
静岡県　牧之原市　相良サンビーチ会場

2023年11月26日（日）
静岡県　牧之原市　相良サンビーチ会場

刺胞海生物に刺された傷病者に対して、JLAの推奨する応急処置は、原則、火傷しない42℃程度の温水などにより30分程度温めることとされている。
今回のJLAの準備した使用器材の中には、50度を超える温水と、常温水を豊富に準備していたことから、ライフセーバーがどのように対応するのかが評価の一項目となっていた。

温度が下がらない状況を維持できたかが、傷病者の主訴を軽減させることにつながる。

2023年11月26日（日）
静岡県　牧之原市　相良サンビーチ会場

救急隊のエキストラの方々は11月下旬の気温でも何度も何度も実施することにより汗をかきながら協力して下さっていました。頭の下がる思いです。

車内収容時に、メインストレッチャーの転倒防止を鑑み、メインストレッチャーのサイドに立つライフセーバーも少なくなかった。

2023年11月26日（日）
静岡県　牧之原市　相良サンビーチ会場

今回の想定では、胸骨圧迫や呼気吹込みを含めた手技について、しっかりと評価をする目的で12分間の想定時間となった。
コロナ禍が3年ほど続いたことや、感染対策に伴い、CPRの十分なトレーニングができない期間が長くありました。
それらの事から、今回はポケットマスクによる呼気吹込みや、実機用電極パッドを活用し、胸骨圧迫をダミーにより実施するなど、実践に近い状況を作って想定を組み立てました。

結果、人工呼吸について更なるトレーニングが必要と課題が確認できた。また、胸骨圧迫についても、十分な胸部挙上や圧迫のテンポ、強度についてトレーニングに重きを置くべきと再確認できた。

各々に、様々な気づきがあり学び多い時間となりました。

2023年11月26日（日）
静岡県　牧之原市　相良サンビーチ会場

この開催地では、普段から公的救助機関との高度な連携訓練を実施していることがうかがえる内容であった。

情報の申し送りだけでなく、無駄な人員配置も少ないと感じました。

また救急隊との連携により、担架搬送もスムーズなチームが少なくなかったと感じました。

2023年12月2日（土）
和歌山県　和歌山市　片男波海水浴場会場

2023年12月2日（土）
和歌山県　和歌山市　片男波海水浴場会場

ポケットマスクを活用した呼気吹込みや、風のある場所で感染防護着の着用など、活動に支障が生まれないよう重要な課題を確認することができた。

2023年12月2日（土）
和歌山県　和歌山市　片男波海水浴場会場

救急隊が到着後にライフセーバーとして何ができるか？

写真から見えてくる課題がある。
救急隊は容態観察や、関係者からの情報収集、様々な資器材の搬送、救急車までの搬入路までの確保、など現状到着後、多くの事項を判断し行動しなければなりません。

ライフセーバーは、救急隊到着後、そこにいるより、もっと何かができたのではないでしょうか？１人でできることを複数人で取り掛かることの無いよう課題を確認できた。

発見できた課題は、来年以降の課題として得るものがありました。

2023年12月2日（土）
和歌山県　和歌山市　片男波海水浴場会場

現場と本部間の無線交信がスムーズに行うことが重要だと確認できた。

現場の状況がわからないと、本部で１１９番通報するための情報が得られず、結果１１９番通報が刻々と遅延する。

衆人観衆の捌きに対して、無線伝達事項など優先順位を試される状況となった。

更には、救急車内収容時は、メインストレッチャーの転倒事故の危険性が高まるため、ライフセーバーがサイドについて、メインストレッチャーを支えるなどの救急隊支援は事故防止の観点から有益と考えます。各地域の公的救助機関と連携していくにあたり、監視業務前に支援していいのか確認事項として次第に上げることも必要である。

救急隊の一人は多くの荷物を一人で搬送している。ライフセーバーはもっと搬送支援できたのではないでしょうか。課題として次回に活かせるものを得ました。

2023年12月3日（日）
富山県　射水市　新湊アイシン軽金属スポーツセンター会場

2023年12月3日（日）
富山県　射水市　新湊アイシン軽金属スポーツセンター会場

気温天候の関係で、審査会史上初めて室内での実施となりました。一方、現地係員や協力者の迅速な対応から、他の開催地と変わらずスムーズに行うことが出来たことに感謝しています。

刺胞海生物刺傷対応については、十分な温度調整と温度が下がらないよう対応できている参加チームがほとんどでした。

呼気吹込みに関しては、フェイスシールドやポケットマスクなど様々な選択肢がある中、感染防止の観点から、JLAの活動ガイドラインにもあるように要検討事項であった。

2023年12月3日（日）
富山県　射水市　新湊アイシン軽金属スポーツセンター会場

救急隊到着後は、情報の申し送り、確保していた関係者通報者を速やかに引き渡す。ここがとても大切になります。

明瞭簡潔に時間短縮で。

救急隊が関係者から情報収取を始めたら、そこにライフセーバーは長時間いる必要はありません。
別の手が足りていない事項に移る。

2023年12月3日（日）
富山県　射水市　新湊アイシン軽金属スポーツセンター会場

観衆や関係者を活用し、観衆整理と共に搬送人員として上手に誘導できている参加チームがあった。

メディア掲出一覧

メディア	報道日	番組・紙面
町報／千葉県鋸南町	令和5年12月号	町報きょなん　トピックス
テレビ報道／富山テレビ	12月3日	ライブBBT　ニュース
新聞報道／北日本新聞	12月4日	朝刊　社会・地域ニュース
新聞報道／富山新聞	12月4日	朝刊　社会・地域ニュース

【 所感 】

先ずは第８回目の審査会に参加して下さった多くの皆様に感謝いたします。

今年度は、全国６カ所で開催し、それぞれの地域で大きな成果を上げることができました。
それには、多くの企業様からのご支援があるからこそ継続できていると深く感謝しております。
このご支援は、我々ライフセーバーのためでなく、多くの水辺利用者にとって安心安全な環境作りに審査会を通して役立たせて頂いています。

また、審査会当日に向け各地域の各行政様と十分なお打ち合わせができたのは、ひとえに、各地域で多くの時間を費やして、動いてくださったホストクラブの方々がおられたからと感謝しています。

地域ライフセービングクラブが長い時間をかけて積み上げてきた地域行政様との信頼関係が十分構築されている地域や、今回の審査会を通して地域ライフセービングクラブと関係行政様と顔の見える関係となれた地域もありました。
いずれにせよ、水辺利用者にとっては、安心安全に繋がる良き効果であったと確信しています。

一方、係員やエキストラに関して、年々協力して下さるメンバーが増えていることや、係員各セクション、エキストラの演技指導などとても大切なポジションの後輩への伝達作業なども垣間見え、次世代へ引継ぎも同時進行で進め、今後の展望に明るさを感じています。

審査会の趣旨や目的は、本報告書の２ページ目に記載ありますが、今回の想定で大きな課題として見えてきている項目に、傷病者のいる現場からの情報が監視長に明瞭簡潔に伝達されているかがライフセーバー間の連携能力に大きく影響したのではないでしょうか。
この事は、有事対応時だけでなく、監視業務を含むすべての行動時にも必要不可欠な能力です。

来年度も全国５カ所で開催を予定しています。
今後とも皆さんと共に、高い誇りを持って活動できるよう、邁進していきますので、どうかお力添えの程宜しくお願い致します。

最後になりますが、地域クラブから選抜された審査員の【検討推奨事項】は、各浜で長い歴史ある監視業務を先人から受け継ぎ、今日まで多くの経験に基づいて構築された貴重な物ととらえています。

第８回ＪＬＡシミュレーション審査会　検討推奨事項に示した『エキストラ所感』『審査員所感』は審査員などから取りまとめた【検討推奨事項】となりますので、『メディカルダイレクター所感』と同様、熟読して頂き、今後のパトロールに活かして頂くことが、審査会の根幹であり、運営側から切望するところであります。

今後も、皆さんと一緒に審査会の運営自体も検討し、大きな効果を得られるようご協力のほど宜しくお願い致します。

公益財団法人　日本ライフセービング協会
救助救命本部
第８回ＪＬＡシミュレーション審査会　実行委員長　菊地太